

令和7年度自己評価計画書[最終]

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
1 基本的生活習慣を身に付け、自己の研鑽に努め信仰の薫育、奉仕の精神を養うとともに「公德心」を育成する。	① 合掌と讃歌、瞑想の朝礼礼拝を行い、一日の学びの始まりに心を落ち着かせ、自分を見つめる。SH時の担任から生徒への語りかけは薫習の場とする。	宗教科 学担会 総務	朝礼では「自分自身を見つめる」時間となっている A よくあてはまる 50% B まあまああてはまる 43% C あまりあてはまらない 6% D あてはまらない 2%	C・D評価が10%以上 においては、内容を検討する。 A	昨年比でA回答でマイナス5ポイント、C+Dは中間では初めて二桁を超える13ポイントであったが、最終では8ポイントとなり改善が見られた。近年振り返ると、礼拝の発声でクラス差を感じたり、出ないクラスが増えたように感じる。本校では朝礼をずっと「0限授業」として大切にしてきた。朝の担任訓話は5分と短いようだが、年間で換算すると16時間50分となる。朝礼礼拝とともに本校の特色ある教育として意義あるものとして大切にしていきたい。
	② 宗教の授業や宗教行事(花まつり、報恩講)を通して自己の内面を省みる。	宗教科	自分の内面を省みて生き方を考える時間となった A よくあてはまる 47% B まあまああてはまる 44% C あまりあてはまらない 8% D あてはまらない 2%	C・D評価が15%以上 においては、内容を検討する。 A	昨年と比べて、B回答よりA回答の方が高まった。今年は蓮如上人御影道中(蓮如上人が歩いたとされる京都から北陸の教地間約240Kmを御影とともに歩く仏事)では本校に立ち寄られ、その趣旨の説明を聞き、報恩講では大谷関連学校の生徒たちと交流することができ、つながりの広がりを感じる事が出来た。
	③ 本校の根幹である宗教教育についての認識を深める研修の機会を持つ。	宗教科 第1学年	宗教教育の認識を深める有意義な研修となった A よくあてはまる 60% B まあまああてはまる 35% C あまりあてはまらない 3% D あてはまらない 1% E 参加していない 2%	C・D評価が15%以上 においては、内容を検討する。 A	昨年比ではB回答以上が若干増えた。今年度新たな講師の先生方も加わり、実体験に基づいた内容であったり、生徒たちの心に分かりやすく感銘を受けるものとなった。また、引率する先生方の配慮ある指導により、生徒たちの研修姿勢もとてもよかった。世界最大の木造建築である東本願寺の歴史にも触れ、自らの学ぶ尊さに気づいてくれたように感じる。
	④ 基本的生活習慣の定着を目指し、生徒の心に届くよう、我々教師集団が率先垂範に心掛ける。また、自己肯定感を養い、生徒の心に火をつける指導を目指す。	総務 教務 生徒指導	基本的生活習慣が定着していますか A よくあてはまる 77% B まあまああてはまる 20% C あまりあてはまらない 3% D あてはまらない 0%	C・D評価が15%以上 で指導体制を強化する。 A	基本的生活習慣(規則正しい生活・時間厳守・整理整頓・自己管理・身なり)についての意識調査の平均値であり、昨年比でほぼ横ばいである。校内での授業中では意識できている生徒が多く前向きに捉えられるが、後期の粟津駅下校指導では一部の生徒の身なり(スカート丈・化粧)など気になる様子が覗えた。特に3年生の進路が決まると緩みがちになり、この状況に素早く対応し指導の方向性を再度確認しなければならない。
	⑤ 掃除は共に学ぶ場の確認であり場への尊敬である。「掃除は自分たちの生活の答案である」と伝え奉仕と思いやりの心を育む。	総務 生徒会 生徒指導	清掃状況についてどう思いますか？ A 綺麗に行き届いている 46% B まあまあ行き届いている 47% C あまり行き届いていない 6% D 行き届いていない 1%	C・D判定が25%以上 において内容を検討する。 B	普段の清掃を振り返り「活動状況と意識」に問いかけた。一昨年から学期末大掃除で節目の意義や[施設を大切に使う]という思いを繋げる「清掃奉仕」の理解を求めて伝えてきた。しかし、総務課からの現状報告では、掃除の徹底を促す声が多く聞かれている。「清掃奉仕」とは共有する場への「奉仕のこころ」を育む教育として大切に、根気よく伝えていかなければならない。
	⑥ 幅広い読書を意欲的に行うことで、思考と情操を深め、自らの人格形成に生かす生徒の育成を図る。	図書館 国語科 総務	読書に親しむ習慣は増えましたか A とても増えた 30% B まあまあ増えた 27% C 変わらない 34% D ない 10%	D判定は意欲を促進 する内容と活動を検討する。 C	「A:とても増えた+B:まあまあ増えた」の回答で、中間より4ポイントアップの57%としたが、Cの「変わらない」は34%であった。最高値判定でC判定となるが、中間より4ポイント読書に親しむ生徒が増えた結果となった。読書の機会を与えたことで、ここまで変わるのかと改めて知ることができた。読書は「趣味・教養・新たな感性を見つけ出す」良い機会だと捉え習慣となるよう続けていきたい。
1 学校関係者評価委員会の評価		①～③宗教教育については引き続きの取り組みを期待する。④の生徒の心に届くよう…心に火をつける…とあるが、具体的ではなく評価しにくいのではないだろうか。また、基本的生活習慣アンケートは項目別に問い生徒の自己評価平均と他者チェック評価も加え、指導に向けてさらに検討を重ねてみてはどうだろうか。⑤についてトイレ清掃の美化も継続しつつ、その他環境の清掃方法の再確認や環境維持に向けての点検などを方策として再検討してはどうだろうか。掃除は日本の文化であり人間教育の大きな柱となる。⑥読書習慣では「A:とても増えた」「B:まあまあ増えた」で合計57%を占め、半数以上が読書習慣に繋がったということであり成果と言える。総じて、いろいろなアプローチから重点目標の公德心の育成に努めた取組に感謝するとともに成果が見られる。			

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
2 各科・コースごとの目標に沿った「学びの保障」を目指し、指導力の向上に努め、生徒一人ひとりの進路実現に対する個別指導を重視し、学習意欲の涵養に努める。	① 各教科において、興味、関心、意欲を引き出す授業の確立に向けて、教材の精選と指導法の工夫改善に努める。	教 務 (研修) 教科	授業の工夫を実感している生徒の割合 A よく工夫されている 35% B まあまあ工夫されている 56% C あまり工夫されていない 8% D 工夫されていない 1%	C・D判定が25%以上において教務課を中心に改善策を検討する。 B	達成度判定基準は3学年の平均であるが、A回答の学年別では1年27%、2年生32%、3年生46%と違いがみられた。学習支援・進路研修等の意識調査でも上級学年ほど意識が高く、逆に低学年ほど意識の低さが目立った。当然ながら上級生は進路実現に向け具体的な姿勢にも現れ一生懸命に取り組むことから、教科指導に対する評価にも繋がっているように見える。とはいえ下級生にも興味関心をもち、継続的に学習に励みたくする授業の展開に持ち込めるよう、我々もさらに研鑽を重ねていきたい。
	② 生徒達への「学びの保障」の実現に向け、指導力の充実を目指し自己研鑽に励む。	教 務 教 科	指導力向上を目指し自己研鑽に励んだ A よくあてはまる 62% B まあまああてはまる 38% C あまりあてはまらない 0% D あてはまらない 0%	D判定が30%以上で実施の内容、指導方法を検討する。 A	自己研修として、リモートでの研修講座やアプリ等での教材研究等が充実しており、それぞれに自己研鑽に励んでいる先生方が多い。また、職員研修ではICT活用授業の実践例を求める声も多かった。これからも「学びの保障」に努め、自己のスキルアップを目指し実践力を発揮して頂きたい。
	③ 普通科の教養、ビジネス、進学特進の各コースと体育科の特色あるカリキュラムをより顕在化するように研究と指導に励む。	教 務 各コース	生徒自身の取り組みについての自己評価 A 意欲的に取組めた 54% B まあまあ取組めた 41% C あまり取組めなかった 5% D 取組めなかった 0%	C・D評価が25%以上において内容を検討する。 A	昨年比(最終)では、A回答で2年生はプラス4ポイント、3年生でプラス14ポイントと大きく伸ばし意識の高さが見られた。達成度基準は3学年の平均でありプラス1ポイントであった。A回答+B回答で9割を超える回答に生徒たちの思いの強さを伺える。学校長が掲げる「学びの保障」をもとに、生徒達に寄り添い一生懸命に向き合っている成果であると思う。これからも教師間の情報交換や指導方法を共有し、生徒達に大いに還元していけたらと強く願う。
	④ 各学年において、一貫したキャリア教育を通して、職業観や勤労意欲の育成に努め、よりよい進路選択の一助とする。	進 学 就 職	実施された進路指導(進学・就職)の評価 A とても役立った 50% B まあまあ役立った 43% C あまり役立たなかった 5% D 分からない 2%	C・D評価が25%以上において内容を検討する。 A	当然、高校生活をスタートしたばかりの一年生は低い値でわあったが、学年が上がるにつれて高い回答を示した(A:1年41%・2年50%・3年60%)。実施しているキャリア指導が進路を考えるうえで、A[とても役立った]と50%(3学年平均)の回答であった(A+B「まあまあ役立った」=93%)。業者との連携や新たな試みが実った結果と言える。これからも生徒の志望や可能性を把握勘案し、内容も精査を繰返しながらい進路実現の一助に努めたい。
	⑤ 「総合的な探究」の時間を活用し各コース、科でのガイダンスやH担任との面談が、進路実現に向けて意識を高めている。	教 務 学 年	進路指導において担任との面談が A とても役立った 55% B まあまあ役立った 38% C あまり役立たなかった 4% D 分からない 3%	C・Dのいずれかの回答が25%以上の場合、面談の回数・あり方を検討する。 A	昨年比、1年48%(+10)2年57%(+7)3学年平均55%(+4)となり、A+B=93%となった。多忙の中、担任の先生方は面談時間の確保に苦労はしたが、生徒達の感謝の思いがこうした数値に現れ、労いの形となった。各コース、科での年間計画に沿って「総合的な探究」の時間を活かし実施してきた成果と言える。しかし、もっと精査すれば新たな試みもできるはず。探究の時間の活用を教務課のイニシアチブのもとさらに模索して進めていきたい。
2 学校関係者評価委員会の評価		2.重点目標に「学びの保障」をあげ、各コース、科の目標に沿って指導力の向上を目指す先生方と生徒達の信頼関係が構築される様子をうかがえる。そして生徒達の進路実現にむける意識も学年が上がるにつれて顕著に数字に表れている。時代に即した指導方法の多様化とともに先生方のスキルアップに努める姿勢に敬意を表するとともに、これから研鑽を重ねより良い教育環境の実現に期待する。各コースの活動や実績も目に見えて年々レベルアップしている様子と偽りのない成果に喜びしかない。引き続き「文武両輪」を求めた教育活動の取組に期待する。			

令和7年度自己評価計画書[最終]

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
3 地域に根ざした学校であることを認識し、生徒・保護者・教職員そして地域の方々の四者が、敬愛と信義の念を持ち連帯感を大切にする。	① 「花見まつり」や「宗教・公開講座」を開催し、地域の方々との交流を通じ、本校との連帯感を深める。	総務 保健体育 生徒会 PTA	本校の教育活動が地域に A よく理解していただいている % B まあまあご理解していただいている % C あまりご理解していただけていない % D 理解していただけていない %	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。 アンケートの実施なし	「地域に根ざした学校づくり」を目指し、春には「お花見まつり」(約250名来校:自衛隊災害支援部隊とコラボ開催)。また本校の特色ある教育の宗教教育を地域の方々や学ぶ「宗教講座」(年間4回:毎回30名来校)、そして奉仕活動として部活動単位での冬季の除雪などから、地域が本校に対する興味・関心から、理解・支援へと変化していることを直に感じる。今後も双方の発展に寄与することを願い、より連帯感を深め教育に繋げていきたい。
	② 登下校時、通学路として利用している学校周辺道路を、全校生徒で清掃活動を実施し、行政企画の「わが町美化ピカ隊」への参加とする。	総務 全学年 (朋会)	校外奉仕活動に対して生徒の自己評価は A 積極的に取り組めた 43 % B まあまあ取り組めた 37 % C あまり取り組めなかった 9 % D 取り組めなかった 6 %	C・D評価が30%以上 において内容を検討する。 A	校外奉仕活動を遠足に組み入れ、各学年コースで工夫を凝らし近隣周辺のゴミ拾いを行ったが、目的がダブルと確かな作業にはつながらなかったように感じた。また冬季では積雪の多いとき津波倉町内の生活道路の除雪を部活動単位で自主的に行う様子も見られた。その際、独居老人宅から、これ以上のない感謝の思いが学校へと届けられた。折に触れ「共生する地域への思い」に気づかせ「奉仕のこころ」が育まれている様子をうかがうことが出来た。
	③ 交通安全対策を積極的に推進するとともに、交通マナー向上に努める。また、蛍光タスキを配り夜間の安全を確保するとともに雨具の携行を義務づけている。	生徒指導 生徒会	交通マナー、モラルにおける自己評価は A きちんとできている 83 % B まあまあできている 15 % C あまりできていない 2 % D できていない 0 %	C・D判定が10%以上 で指導体制を強化する。 A	登下校での大きな事故やトラブルはなかった。ただ、試験期間中の帰宅が集中した時や夜間の下校時に、自転車利用者の並列走行の苦情が多かったので、蛍光タスキの着用も重ねて顧問に指導を依頼した。その様子から少し自らを守る安全意識が薄れているようにも感じた。また、部活動も一息つきIR利用者が増える10月頃から、先生方で駅舎利用や周辺のゴミ拾いを行い、生徒の校外の様子にも目を向け、モラル教育の重要性を認識した。
	④ 危機管理意識を高め、事故防止と発生時の救急対応に万全を期す。また、頻発する自然災害に対し、防災教育の啓発に努める。「三大訓練の実施」	総務 保健体育 生徒指導	危機管理に関する校内教員研修・訓練を A 年間3回以上行った B 年間2回行った C 年間1回行った D 行わなかった	C・Dにおいては日程・内容を検討する。 B	生徒達の意識調査では「防災訓練において、非常時の対応や避難行動を学ぶ良い機会になった」という回答が9割を占めた。能登震災の怖さに触れ、他人ごとではない現実を感じているようである。本校校舎の耐震性は高いが、訓練に照らし合わせ我々の初期対応の指示として「落下物の回避」「現状の安全確認」「避難行動」「人員の確認」など想定外も含め、検討を継続しながら防災意識を高めている。
	⑤ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことで、生徒の様子を直にご覧いただき保護者との連携・支援を図る。	総務 生徒会	本校の教育活動を A よく理解することができた 50 % B ある程度理解することができた 46 % C あまり理解できなかった 4 % D 理解できなかった 0 %	C・D判定が15%以上 で日程・内容を検討する。 A	2学期末保護者対象:教育活動の理解度アンケートより。(1・2年生保護者対象回答率55%)「生徒ひとり一人を尊重し、個性の伸長を図り、社会的資質や行動を高める」指導にA回答で、「学習の定着を図る工夫ややる気のを引き出し前向き取り組ませる指導」では、B回答であった。また、本校に期待することとして、①進路指導、②学習指導、③課外活動の順にあげられ、「生徒達がイキイキと学習や部活動に励んでいる」といった特徴を抱かれている。
3 学校関係者評価委員会の評価		部活動終了時間帯を見越し、バスやIR運行時間の運動性について関係機関と交渉する余地はないか？または、公共交通機関の利用者を考慮し、部活動終了時間を考えることはできないか？と、自転車通学者の安全を憂慮することから検討して頂けないかと考える。地域に根づいた活動のひとつに、冬季の除雪作業や清掃活動には改めて信頼されている学校だという印象を感じる。礼儀正しい生徒が多くなっていることを感じるも、青年期の難しい時期、個々の成長を願い四者(生徒・保護者・学校・地域)が協力し合える環境づくりをこれからもお願いしたい。			

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
4 生徒会活動のより活発化を目指し、自治的な取り組みを充実させ、自主・自立・協調の精神を育成し、心身の健全な発達を求める。	① 生徒自身が活動をととして、人間関係の構築や学習意欲、また自己肯定感や連帯感の育成に役立っている。各部部員数の飽和状態(入部率93%)にあるが、意義を求め活動の充実と向上を図る。	生徒会 第1学年 学年	指導方針や活動内容に充実感を抱き A とても満足している 52% B まあまあ満足している 33% C あまり満足していない 5% D 満足していない 2% E 所属しているが、参加していない 4% F 所属していない 6%	C・D評価が10%以上 において指導体制を 検討する。 A	近年、運動部への活動希望者が増え大所帯となり、本来の活動が思うようにできず思案する部が増えてきた。(野球82名、弓道68名、陸上60名、空手56名、サッカー54名、男子バスケ51名、男子バレー48名、テニス38名、チア36名)志を持った生徒が増えたことは教育活動の活性化につながると考えてはいたが、指導者の配慮にここまで負担を掛けるとは思わなかった。しかしこの状況でも、全国大会出場を果たした部は10を数え創立以来最多となる。顧問の先生方には改めて敬意を表し、これからも生徒達とともに夢の実現を目指して頂きたい。令和7年度県高校総体学校対抗総合成績:男子3位(創立初・敢闘賞)、女子4位、総合4位の結果を収めた。(高野連・高ゴ連・チアは除外)(運動部14 / 文化部 10 / 社会体育3 / 社会文化1)
	② 生徒一人ひとりの生徒会活動への参画意識を高め、生徒達自らの意見を十分取り入れた活動を行っている。	生徒会 学年	生徒会活動に積極的に参加し楽しめましたか? A 積極的に参加し楽しめた 60% B まあまあ参加し楽しめた 33 % C あまり参加できず楽しめなかった 2% D 参加できずに楽しめなかった 0%	C・D評価が30%以上 において活動のあり方 を検討する。 A	調査結果は生徒会行事の球技大会や学園祭についてである。前期執行部は[校則の見直し]を全校に問いかけながら、学園祭へ生徒ひとり一人の参画意識を求め思い出に残る行事を目指し励んでいた。結果、校則は[生徒達が平等に安心して学校生活を送り、自身を守るために校則がある]と再認識することができた。また、猛暑の学園祭では熱中症対策に始まり健康対策を最優先に考え、それぞれに課題を見つけながらも有意義な学園祭と評価できる。しかし後期では委員会活動について意識調査を行ったが、もう少し活動の活性化を求める声もあった。
	③ 公安・保健委員会による挨拶運動や交通安全啓発活動としての呼びかけなど、生徒達自ら行動に繋げられるよう働きかける。	生徒会	自己自制や社会規範の定着度 A きちんとできている 75 % B まあまあできている 18 % C あまりできていない 2% D できていない 1 %	C・D評価が30%以上 において活動のあり方 を検討する。 A	ここでは「ながら使用」について、自己自制や社会規範が定着しているかを問いかけた。非常に高い数値が示されたが、現状ではそうでもないように感じる。社会では生活安全面、健康被害と沢山の弊害が表面化されている。それぞれが有効に活用できるように、また社会規範として、他者に対しても考えられる視野を身に付けてほしい。我々は高校が最後の教育機関として責任を持ち続け、生徒の安全を求めしっかりと向き合っていきたい。
	④ 鑑賞や創作を通して情操陶冶と健やかな人間形成に役立てる。	生徒会 国語科	豊かな情操を育むことに A とても役立った(楽しめた) 46% B まあまあ役立った(楽しめた) 45 % C あまり役立たなかった(楽しめなかった) 6% D 役立たなかった(楽しめなかった) 2% E 不参加 1%	C・D評価が25%以上 において活動のあり方 を検討する。 A	文化教室 短歌・俳句大会 A とても楽しめた 45 % A とても楽しく取組めた 46% B まあまあ楽しめた 42% B まあまあ楽しく取組めた 47% C あまり楽しめなかった 7% C あまり楽しく取組めなかった 5% D 楽しめなかった 2 % D 楽しく取組めなかった 2 % E 不参加 4% 文化教室 演目:Touch”孤独から愛へ”演劇を鑑賞する。休憩時間には生徒達を舞台へ上げてくださり、その舞台の裏側も堪能することが出来た。
4 学校関係者評価委員会の評価		生徒達が課外活動や生徒会活動に夢と希望をもって活動している様子がうかがえる。仲間と共に切磋琢磨を重ね各部の目標と人間形成を目的に、大切な高校時代を過ごしていることに感謝する。部員が増え大所帯になってのやりくりや、活動にかかる諸経費等の問題、そして何より指導者の思いで成り立っている活動時間の指導者にかかる負担など、「高校教育が最後の教育機関である」という先生方の使命感を強く感じる。活動によって伴う経費的な負担には、もう少し補助、協賛などの取組を考察して頂けると、より良い組織的な取り組みになるのではないと思う。最後に子供達自身が取組む意義をよく理解し、沢山の生徒達が集う学校に保護者として大変誇りに思う。			

